

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協 ひろば

第104号 (準備会から通算第125号)

発行日 令和7年年12月6日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 山崎 徳次郎

・・・デフリンピック・・・

聴覚障がい者の国際スポーツ大会「デフリンピック」が11月15日～26日迄東京をメイン会場に開催されました。

以前第96号住民協ひろばの巻頭言にも書きましたがオリンピック、パラリンピックと同じように4年に一度開催され夏季大会と冬季大会があり、デフリンピックは東京2025夏季大会が日本での初開催です。

第1回大会はフランス・パリ大会で1924年。

日本は1965年から参加し、今回はパリ大会から100周年の記念となる大会で70～80の国・地域から21競技に選手約3,000人が出場します。

日本は全21競技に271選手が出場し内女子は112人が名を連ねています。

先日(10月28日)デフリンピックの神奈川県から出場する選手の壮行会が逗子市役所前で行われました。出場種目は射撃で日本代表5名のうち3名が神奈川県出身者。

射撃は男女の性別や年齢、障害の程度による差はなくオリンピック規則と同一です。ただ聞こえないので経過時間や残り時間は掲示されます。(写真はデフリンピック壮行車) →



参加する射撃種目は10M/5Mエアライフル、10Mエアライフル混合、50Mライフルプローンとライフル三姿勢といろいろあります。

10M/5Mエアライフルは空気銃を使用し的に向かい立射で行う。

50Mライフルプローンとライフル三姿勢は小口径のライフルを使用しプローンは伏射、三姿勢は立射、伏射と膝射の三種を行う。

ライフル射撃を始めるには難しいと云われる初心者講習を受けて猟銃・空気銃所持許可証をまず取得しないとライフル射撃は始められません。その後銃を購入し練習を始めるわけでどうしてもある年代にならないと技量向上は果たせません。

国によって銃に対する規制が異なりますのでその点大きなハンデがありますが日本選手の活躍に期待し、大いに応援しました。

校区住民協 会長 山崎 徳次郎

令和7年11月度役員会

開催日時：2025年11月1日(土) 13時00分～15時00分 場所：久木会館

出席者：役員：山崎徳次郎 石井達郎 鈴木為之、
小林寿志、長嶋啓、新倉洋一、増子俊雄、瓶子純

一、河邊寛、大塚邦彦、森戸久朝、龍村敦子
役員外：高野毅、

行政：堀田昌希/地域担当リーダー、小岩井沙絵
配布資料：①第 96 回役員会アジェンダ ②チラシ・池子の森を知ろう（おはなしかい・クイズラリー11 月 15 日） ③住民協ひろば 103 号
山崎会長挨拶：デフリンピックに逗葉ろうあ協会、葉山の永田氏が射撃で出場する。

議題

- ① 住民協ひろば特別号関連：印刷へ回す前の読み合わせ、最終チェックをした。4 日（火）データを大久保印刷に送る。20 日（木）納品。11 月末全戸配布予定である。
- ② 避難所準備委員会からの報告：11 月 30 日の避難所運営訓練の資料に基づき避難所準備委員からプログラムの説明があった。
山崎会長、石井事務局長が防災安全課へおもむき、防災訓練ポスターならびに WEB アンケートに関して提案した内容の報告があった。
- ③ 公共交通審議会（10 月 30 日開催）の報告：住民協の担当長嶋さんから市民アンケートの結果報告があった。交通問題で何が問題で、住民は何に困っているかを探っているが、町の活性化の

以上 15 名

- ④ひろば特別号 9 号 1 校 ⑤久小校区市防災訓練・避難所運営訓練資料 ⑥ひろば 1 月号防災訓練特集号執筆依頼表
事務局から：配布チラシの説明、池子の森イベントについての説明があった。

- ための住民の有効な移動手段についてまとめることができるのかは難しい。基礎インフラに問題があることから外出を困難にさせている原因を福祉的視点からさぐっていくことになるかもしれない。次回は 2 月に開催予定。
- ④ 拡大版朝市について：現在 6 店舗の出店が予定されている。
- ⑤ その他：久木会館使用料を光熱費などの高騰が原因で、来年 4 月から値上げする予定である。コピー機は 11 月から新機種を導入する。（部品の製造中止）
事務局長より社協、包括、久木体育会との連携を強化していきたい旨の提案があった。

《寄稿》 驚かされたこと、驚いたこと。

いつものように来館者が喫茶スペースに座っている。
杖を持たれている。
近寄っておはようございますと声をかける、いつものように。
笑顔を見せて挨拶を返してくれる。
連れ合いの女性が近づいてきて杖を突いている女性を介助しながら立ち上がる。

どうぞ、のんびりと過ごしてください、と私。
すると介助していた女性が「校長先生だったみたいですね」って私の顔を見て言う。
あれ、どうして私の前の職業を知っているのかなと思いながら「え、そうなんですが…」と答えるともなく答えると、

2025・10・23 駄洒落栖人

「あら、やっぱり」と。「どうして分かったんですか」って聞くと、
「ええ、声のかけ方、近づき方、話しかけ方、人に接するあり方が」って。
そうなんだあ…って感心していると。

「どちらで」って聞くもので「浦賀中です」っていうと「あら、私も横須賀です」っておっしゃる。
「えー私も横須賀で」
「どちら」
「汐入」
「あれまあ、私、坂本小」
「私も坂本小」ってもう一人の方が、「じゃあ、中学は坂本中」お二人とも坂本中。
「高校は大津高校ですよ」お二人が同じ高校。「あ

れ、私の妻とおんなじキャリア」

おひとりの女性は80歳、もう一人の方は私と同じくらい。

もう驚き桃の木山椒の木です。

今度、ゆっくりお話ししましょう、昔話に花咲かせて…。

と言って終わりにしました。

こんな逗子で幼少の時の方々にお会いするなんて。

嬉しいやら、懐かしいやら。

驚くやら。

話してみるもんですね。

校区住民協 監事 細野 裕

《トピックス》 米の問題・・・適正な価格は？

鈴木 為之（山の根在住）

米の問題は世情不安を齎す一つの大きなきっかけです。そこで米騒動といわれた事件を振り返ってみましょう。

昨年（2024年）令和の米騒動といわれるコメに関する社会現象が起きました。昨年（2024年）夏ごろから、スーパーの店頭からコメが消え始め、今年に入って価格が高騰、店頭平均価格として2000円台から4000円台に高騰した現象です。原因は何だったのか、いろいろ言われていますが、私なりに要約してみると次のようになります。

米の需給は、減反政策の実質的な延長（注）でタイトであったところに、前年度（2023年度）の供給量が高温・干天で不良米が発生したことで、実際には不足していたところに南海トラフ警戒情報による買いだめ等による需要増で、供給量が不足して小売りの店頭から姿を消した。一方でJA 外の取引業者からの高値のコメが市場に出回った。主食であるコメは、値段が上がっても需要量は減らないため、わずかな供給不足でも価格の高騰を招くといわれます。

この騒動に対して政府は、災害等の非常時に備えた備蓄米を随意契約（廉価）で市場に放出することにより供給量を確保して、その結果高騰を抑え3000円台まで下がりましたが、2025年10月時点では、平均価格は4000円台に戻っています。

（注）減反政策は、2018年に名目上は廃止されてはいるが、大豆や小麦など転作作物に補助金が出るため、主食用のコメの生産抑制は続けられて

いる。

米不足は、1993年（平成5年）にも発生し、平成の米騒動と呼ばれました。この年の夏の気温が例年より2～3度低くなるという冷害によるコメの不作（作況指数74）のため店頭からコメがなくなり、買い求める人で長蛇の列ができたことで有名です。価格も高騰しました。騒動は翌年の米作が豊作だったため解消しました。

令和の米騒動は25年度産米が豊作といわれているのかかわらず、新米の出回りと共に、逆に値段が上がってきているところは、大分様子が違いますね。平成の米騒動は、冷害という天候不順が大きな要因であったが、令和の米騒動は、天候不順だけではなく、多種の要因が関係して起こったことが想像されます。

何故、令和の米騒動では価格が下がらないのか？よく言われているのは、コメ農家から買い付けの4割を占めるJAが25年度産米の引き取り価格（概算金）を高く設定したため、小売価格も高くなったということです。25年度産米が豊作とは言われるものの、諸般の状況から需要と供給のバランスがタイトであると想定し、供給量を確保しておこうと判断したのでしょう。仕入れの価格設定は予想される小売価格から逆算されていくのが一般的と思われますが、今回のJAの価格設定は違いますね。

米の適正価格は？

コメの価格は、消費者の望む価格と、生産者が望む価格では大分ギャップがあるようです。東京新

聞が全国 16 紙合同で行った価格のアンケート調査が参考になります。それによると、消費者の立場（約 4900 人）では、5 kg 価格で 2000 円～2500 円が 27%・2500 円～3000 円が 23%、生産者（約 500 人）は 3500～4000 円が 23% で最多。識者（新潟大学農学部伊藤亮司助教）によると、生産者が収益を確保できる 5 kg 価格は 4000 円超となるとのこと。

この希望価格のギャップを埋めて両者にとってウイン・ウインの関係である価格はいくらか、コメの価格は速やかに生産調整ができる工業製品のように市場の需給に任せた価格設定メカニズムだけではなく、何らかの価格を安定させる仕組みを加味させることが必要でしょう。

コメの生産現場の実情を知るに、決して将来を樂觀できる状況ではありませんね。。

就業者の平均年齢は 69 歳（2020 年度）、農業世帯人数は 2000 年の約 1000 万人から 2020 年は約 350 万と 20 年の間に 1/3 に減少、耕作面積も減少を続けています。特に問題なのは、多数を占める小規模農家では、主人が高齢化して稲作が担えなくなっても後継者がいないため、廃業

していくことです。需要減少に伴う減反政策が長年続いたため、事業を継続する意欲が低下しているのです。将来必要される量のコメが生産できるのか疑問が残ります。

米に関して求められることは何かを考えるに、次のような事項が考えられます。

↑ 安定した価格で安定した供給がされること
↑ 再生産が可能であること（生産者と生産者収益の確保、）、

↑ 国内で自給できること（食糧安全保障）、

↑ 異常気象による不作に耐えられること（備蓄、品種改良）

↑ 正確な統計資料

コメの問題は多次元方程式を解くような難解な問題と思われますが、いくつかの解答の道筋が考えられるようです。政府の政策は、前内閣で従来の生産調整政策から増産の方針に転換、更に新内閣に代わって生産調整へと変わっていく動きがあります。

議論を重ねた上で、生産者にとっても消費者にとってもウイン・ウインとなる価格に落ち着くことを期待したいですね。

編集後記

ポインセチア・・・クリスマスや年の瀬を迎えると街や家にポインセチアが広く飾られる。

ポインセチアはメキシコ原産でメキシコではポインセチアは「聖夜」を意味する「ノーチェ・ブエナ」を意味するとの事である。

17 世紀にメキシコに渡った宣教師達がキリストの生誕を祝う祭事に「清純なキリストの血」をイメージしてポインセチアを使った様である。

ポインセチアという呼び名は米国の初代メキシコ大使であるジョエル・ロバーツ・ポインセットを因んで命名されたとの事である。

ポインセチアの赤い部分は花ではなく苞（ホウ）と呼ばれる葉の部分らしい。

ポインセチアの花言葉は「幸運を祈る」でありクリスマスや年の瀬を赤く華やかに彩るものとなっている。ポインセチアがクリスマスの花となったのは 400 年以上も前の事であり、歴史を感じながら鑑賞して見ては如何とを感じる次第である。



事務局長 石井 達郎